

令和2年度 鹿児島県立伊集院高等学校 シラバス

1年生用



1年()組()番
氏名()

シラバスって何？

シラバスとは、各学校の教育活動に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載されます。

シラバスの語源

英語のシラバス (syllabus) は、ギリシャ語の *sittuba*、すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」、または「標題紙」という意味の言葉を語源とします。

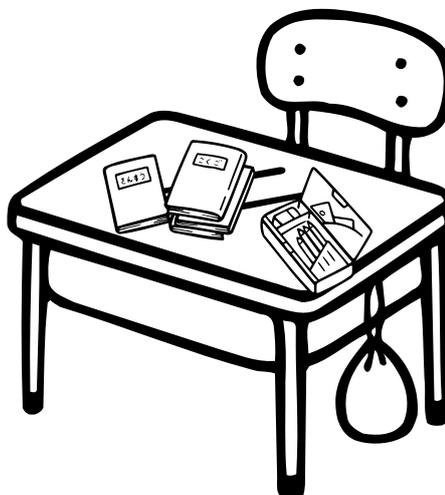
伊集院高校シラバス活用のポイント

本校のシラバスは、教科・科目ごと1頁に、次の項目をまとめてあります。

- (1) 教科・科目の目標
- (2) 学習のねらい・学習内容
- (3) 試験範囲・出題方針
- (4) 評価の観点・方法
- (5) 学習のアドバイス

みなさんがより効果的に学習を進めていけるように、教科・科目によっては、学習内容の順番や時期を変えたり、内容を精選してあるものもあります。シラバスに記載された各教科・科目の学習目標にしたがって家庭での学習計画を立案・実践してみましょう。きっと、すばらしい成果があがると思います。

学年や文理のコースによっては、進学に向けて教科書早期採択を行ったり、大学に備えた授業を展開する教科・科目もあります。シラバスを熟読し、学年末には各教科・科目の到達目標をクリアできるよう期待します。



教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 1
国語	国語総合	5	必修	一斉	普通	1	国語総合

教科書（発行所）	精選国語総合（東京書籍）
教科書以外の教材	1 『トリプルチェック文字力王』（尚文出版） 2 『体系古典文法』（数研出版） 3 『精選漢文』（尚文出版） 4 『体系古典文法準拠ノート』（数研出版） 5 『精選漢文ノート』（尚文出版）

目 標	国語を的確に理解して表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。 思考力や想像力を伸ばして心情を豊かにし、言語感覚や言語文化に対する関心を深める。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など 考查等
一 学 期	4 月	随想 届く言葉 古文入門 児のそら寝 漢文入門 訓読の基本	・随想の読み方を習得する。 ・物語の展開をしっかりと読み取り、登場人物の心理を読み進める。 ・訓読のきまりを理解し、漢文についての関心を高める。
	5 月	小説1 羅生門 古文入門 検非違使忠明 故事成語 矛盾	・小説という虚構の中で人間という存在について考える。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・我々の身近にある言葉の語源を知り、その意味を理解する。
	6 月	評論1 今ここにある無数の未知 古文入門 絵仏師良秀 故事成語 推敲	・評論の文章について論理の展開や要旨を的確に捉える。 ・「かぐや姫」の話をも古文として読み進め楽しむ。 ・訓読のきまりを理解し、漢文についての関心を高める。
	7 月	評論1 水の東西 随筆 徒然草 舟波に出雲といふ所あり	・詩の世界に触れ、作者の思いを読み解く。 ・「徒然草」の文学的意義を学び、兼好法師の人生観を考える。
	8 月	寓話 借虎威	・漢文を書き下し文にすることに慣れながら読解力をつける。
			第2回実力考查
二 学 期	9 月	小説2 沖繩の手記から 歌物語 伊勢物語 東下り 寓話 塞翁馬	・登場人物の心情を読み味わうと共に平和について考える。 ・登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・漢文を書き下し文にすることに慣れながら読解力をつける。
	10 月	詩歌 汚れちまった悲しみに Iwas born 日記と随筆 土佐日記 馬のはなむけ	・詩歌に親しみ、そこに描かれた世界を読み味わう。 ・作品の形態に応じた表現の特色に注意して読む。
	11 月	唐詩 春暁 望廬山瀑布 評論2 欲望と科学 日記と随筆 枕草子 にくきもの	・漢詩のきまりを学び、その面白さを味わう。 ・評論の読解方法を習得する。 ・作者の考え方を踏まえて、ものの見方・考え方を豊かにする。
	12 月	唐詩 春望 香炉峰下～ 詩歌 十五の心 白牡丹 作り物語 竹取物語 天の羽衣 史話 晏子之御	・漢詩のきまりを学び、その面白さを味わう。 ・韻文の魅力を知り、短歌や俳句について学ぶ。 ・登場人物の心情と行動に注意し、内容を読み取る。 ・登場人物の行動や心情を読み味わう。
三 学 期	1 月	評論3 真の自立とは 軍記物語 平家物語 木曾の最期 史話 臥薪嘗胆	・構成に注意して評論を読み、自ら考える態度を養う。 ・声に出して読み、独特のリズムを味わうとともに歴史を学ぶ。 ・史話に描かれた情景や人物の心情を読み味わう。
	2 月	小説3 鏡 和歌 万葉集・古今集・新古今集	・特有の語り口の小説を読み、「鏡」の意味について考える。 ・和歌によまれた思想・感情・情景を読み取る。
	3 月	思想 論語十章 評論3 生物の多様性とは何か 俳諧 奥の細道 思想 孟子	・日本人に大きな影響を与えた孔子の思想を学ぶ。 ・筆者の考えを論理的に読み解き、見方・考え方を豊かにする。 ・作品に込められた作者の思いを読み取る。 ・古代中国の思想について理解を深め、ものの見方、考え方を豊かにする。
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	「予習→授業→復習」の繰り返しで学力の定着を図ることが最も大切です。予習の仕方や ノートの取り方については、授業の取初めの時間に指示します。授業で予習基礎的な知識を整理し たかつ、日ごと考える予習、日ごと予習する習慣を身につけてください。また、予習に予習の目的は 予習の目的、繰り返し復習するよう心がけましょう。また、積極的に読書にも取り組んでましょ		
評価の観点	1 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 2 話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと 積極的に自分の考えを深め、発展させる。 3 知識理解 伝統的な言語文化や言葉、漢字などについての知識を身につける。		
評価の方法	定期考查、実力考查、平常点で評価します。平常点は出席状況、授業への取り組み、提出物の状況、小テストの結果などから総合的に評価します。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
地歴公民	世界史A	2	必履修	一斉	普通科	1

No. 3

世界史A

教科書（発行所）	改訂版 世界の歴史（山川出版社）
教科書以外の教材	世界の歴史ノート（山川出版社） 明解世界史図説 エスカリエ（帝国書院）

目 標		世界の歴史の大きな枠組みと流れを、近現代史の概要を中心に我が国の歴史と関連づけながら理解させ、現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	第2部 地球社会と日本 第1章 現代の始まりと帝国主義 38 資本主義社会の成熟	資本主義化の進行が帝国主義成立の背景にあることを理解する。	
	5月	39 世界分割と一体化の進展 40 帝国主義の国際対立	帝国主義の成立により、国際対立が激化したことを理解する。	1学期中間考查
	6月	41 植民地・従属国での民衆の抵抗 42 日露戦争と韓国併合	帝国主義の成立により、アジア・アフリカの国々が侵略の対象となり、その侵略に対する抵抗運動も各地で勃発したことを理解する。	1学期期末考查
	7月	43 辛亥革命	列強の侵略に対する中国の抵抗運動について理解する。	
	8月			
二学期	9月	第2章 二つの世界大戦 44 第一次世界大戦 45 ロシア革命	帝国主義による国際対立の激化が第一次世界大戦の背景にあることを理解する。	
	10月	46 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 47 1920年代のアメリカとヨーロッパ	第一次世界大戦後に成立したヴェルサイユ・ワシントン体制の成立について学ぶ。	2学期中間考查
	11月	48 アジア諸地域の民族運動 49 東アジアの民族運動	第一次世界大戦後のアジア諸民族の民族主義の目覚めとその運動の状況について理解する。	2学期期末考查
	12月	50 世界恐慌 51 ファシズムの台頭	世界恐慌の発生の背景とファシズムの成立について学ぶ。	
三学期	1月	52 第二次世界大戦前夜の世界 53 満州事変と日中戦争	日本におけるファシズムの動きについて学ぶ。	
	2月	54 第二次世界大戦Ⅰ 55 第二次世界大戦Ⅱ	第二次世界大戦の背景とその経過・影響について理解する。	学年末考查
	3月	第3章 平和と冷戦	第二次世界大戦後の新しい国際体制やアジア・アフリカ諸国の動向について学ぶ。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を重視し、毎時間集中力を持って臨む。課題等の提出は期限をしっかりと守って出す。 ・関係する書籍等も自主的に読み、歴史への興味・関心を持つ。 ・図表の写真・資料・地図等を積極的に利用し、多角的に学習する。 		
評価の観点		<ol style="list-style-type: none"> ①近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究し、そのあり方について考察しようとしている。 ②現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ③近現代を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ④近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。 		
評価の方法		評価の基準は定期考查となるが、出席状況、授業への取り組み、ノート・課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 5
地歴公民	日本史 A	2	選択必修	一斉	普通科	1	日本史 A

教科書（発行所）	現代の日本史改訂版（山川出版社）
教科書以外の教材	新詳日本史（浜島書店） ゼミナール日本史（浜島書店）

目 標		近現代を中心とする我が国の歴史の展開を、世界的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連づけて考察する。そのことによって歴史的考察力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学期	4月	第1章 開国と維新 1. 明治維新の背景 2. 西洋への開国 3. 政治秩序の崩壊	幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成の基礎的な事柄を、欧米諸国のアジア進出と関連付けて理解する。	1学期中間考查
	5月	4. 王政復古と急進的改革 5. 新たな対外関係の樹立と内乱の終結		
	6月	第2章 近代国家の形成と発展 1. 立憲政治をめざして 2. 東アジアの国際環境と条約改正問題 3. 東アジアの国際環境と条約改正問題	開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について理解する。	
	7月	4. 清国との戦い 5. 藩閥・政党の対立と協力 6. ロシアとの戦い 7. 日露戦争後の国際関係と日本		
	8月	第3章 産業化の推進と国民生活の変化 1. 産業革命の進展 2. 資本主義の確立とその特色 3. 社会問題の発生 4. 国民文化の形成 5. 国民生活の変化	近代産業の発展の経緯や近代文化の特色とその背景について考察するとともに、国民生活の向上と社会問題の発生についても理解する。	
2 学期	9月	第4章 第一次世界大戦とデモクラシー 1. 第一次世界大戦と日本の外交 2. デモクラシーの高まりと政党	国際社会の中の日本の立場に着目して、第一次世界大戦前後の対外政策の推移や、大戦が国内の社会に及ぼした影響について考えさせる。	2学期中間考查
	10月	3. 国際協調と軍縮の拡大 4. 政党政治の時代 5. 大戦中から戦後の経済と社会 6. 都市化と大衆文化	政治や社会運動の動向、都市の発達と農山漁村の変化及び文化の大衆化に着目して、大衆社会の特色とその成立の背景について考えさせる。	
	11月	第5章 第二次世界大戦と日本 1. 昭和恐慌 2. 協調外交のゆきづまり 3. 満州事変から国際的孤立へ 4. 軍部の政治的台頭	国内経済の動揺とアジア近隣諸国との関係に着目して、国際社会の動向と日本の政治史・経済史の流れを理解する。	2学期期末考查
	12月	5. 中国との戦い 6. 第二次世界大戦と世界新秩序 7. 太平洋戦争 8. 日本の敗北	日中戦争から太平洋戦争、終戦までの流れと、戦時体制の教科など日本の動向について理解する。	
3 学期	1月	第6章 占領下の日本	占領政策と諸改革、新憲法成立について理解する。	学年末考查
	2月	第7章 日本の自立と経済成長	平和条約と独立に着目して考える。	
	3月	第8章 現代の世界と日本	我が国の再出発とその後の政治・経済等を理解する。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を重視し、毎時間集中力を持って臨む。課題等の提出は期限をしっかりと守って出す。 ・関係する書籍等も自主的に読み、歴史への興味・関心を持つ。 ・図表の写真・資料・地図等を積極的に利用し、多角的に学習する。 		
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究し、その在り方について考察しようとしている。 ・我が国の近現代の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・我が国の近現代の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ・我が国の近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身に付けている。 		
評価の方法		評価の基準は定期考查となるが、出席状況、授業への取り組み、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 7
地歴公民	地理 A	2	選択必修	一斉	普通科	1	地理A

教科書（発行所）	高等学校 新地理 A（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）
教科書以外の教材	新編地理資料 2020（東京法令出版）

目 標		現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学期	4月	地理の基本的事項 1章	世界の国々、人口、面積、鹿児島県についてなど地理の基本的事項について。	1学期中間考查
	5月	①球面と平面の世界 ②国家の領域と領土問題	球体の地球、緯度、経度、自転、時差について学ぶ。 国家の3要素、世界が抱える領土問題について学ぶ。	
	6月	③交通・通信 ④観光 2章 ⑤地形	世界の国々の交通の特徴について学ぶ。 世界の国々の観光の特徴について学ぶ。	1学期期末考查
	7月		プレートテクトニクス、プレート境界について学ぶ。 大地形と小地形について学ぶ。	
	8月		都市災害自然災害について学ぶ。	
2 学期	9月	⑥気候	気候とは何か、気候のメカニズムを学ぶ。	2学期中間考查
	10月		⑦世界の農業 農業の地域区分と農業の特徴について学ぶ。	
	11月	4章	熱帯林伐採、地球温暖化、オゾン層破壊、砂漠化、日本の公害問題について学ぶ。	2学期期末考查
12月	⑧世界の環境問題			
3 学期	1月	⑨世界の人口問題	経済レベルと結びつけて、人口転換の内容を学ぶ。 人口ピラミッドの見方から世界の国々の特徴を学ぶ。	学年末考查
	2月	3章 ⑩地誌（各国の生活・文化）	アジア→アフリカ→ヨーロッパ→北米→南米→オセアニアの生活・文化について学ぶ。	
	3月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<ul style="list-style-type: none"> 用語を覚えるのではなく、なぜそうなっているのかの疑問を大切にその用語を人に説明できるようになる。 丁寧な授業ノートを作ろう。ノートは自分に最も適した参考書になります。板書されたこと以外もメモすると良いです。 蛍光ペン、色鉛筆、ノリ、ハサミを準備する。見てわかるノートにするために。ポイントをわかりやすくするために。 復習中心の学習をしよう。習った範囲を資料集やノートを見ながら自分で整理すると次の授業につながります。 		
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。 現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身につけている。 		
評価の方法		評価は考查を基準とするが、出席状況や授業への取り組み、提出物なども含めて総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学 I	3	必修	一斉	普通	1

No. 3

数学 I

教科書（発行所）	改訂版 新編数学 I （数研出版）
教科書以外の教材	類比方式による2020数学 I ・ A （九州数学教育会） チャート式解法と演習数学 I + A （数研出版）

目 標		数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析について理解し，基本的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。	
学期	学習時期	学習内容と目標	考查等
一学期	4月	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また，式を多面的に見たり処理したりするとともに，1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 1 数を実数まで拡張する意義を理解し，簡単な無理数の四則計算をする。 2 2次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め，式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりする。	第1回実力考查
	5月	第3節 1次不等式 3 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し，1次不等式の解を求めたり1次不等式を事象の考察に活用したりする。	1学期中間考查
	6月	第2章 集合と命題 集合と命題に関する基本的な概念を理解し，それを事象の考察に活用する。 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 2次関数とそのグラフについて理解し，2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 事象から2次関数で表される関係を見出す。また，2次関数のグラフの特徴について理解する。 2 2次関数の値の変化について，グラフを用いて考察したり最大値や最小	1学期期末考查
	7月	第3節 2次方程式と2次不等式 3 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに，数量の関係を2次不等式で表し2次関数のグラフを利用してその解を求め終了後，数学Aの第2章を学習する。	第2回実力考查
二学期	8月		
	9月	第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 三角比（正弦・余弦・正接）の意味やその基本的な性質について理解し，三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに，それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。 2 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し，鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める。 3 正弦定理や余弦定理について理解し，それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。 4 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用する。 以降は，数学Aを学習する。	
	10月	第5章 データの分析 統計の基本的な考えを理解するとともに，それらを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 1 四分位偏差，分散及び標準偏差などの意味について理解し，それらを用いてデータの傾向を把握し説明する。 2 散布図や相関係数の意味を理解し，それらを用いて2つのデータの相関を把握し説明する。 数学 I 終了後，数学Aの内容を学習する。	2学期中間考查
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		○あきらめずに粘り強く考え抜き，「自ら考え，自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに，自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に，復習に時間をかけ，知識をしっかりと身につける。 ○授業では，ノートをとって安心しない。話をよく聞いて，考え理解することに集中する。	
評価の観点		○評価の観点は，数学への関心・意欲・態度，数学的な見方や考え方，数学的な表現・処理，知識・理解の4項目とする。 ○単元や各授業の学習過程で，評価の観点の4項目について，良い点や進歩の状況などを評価し，その累積と定期考查等の状況及び出席状況により各学期ごとにまとめる。	
評価の方法		○具体的な評価は，授業の中での観察，ノート，日々題，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，単元ごとに単元テストを実施し，それらを用いた自己評価も必要に応じて取り入れる。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学Ⅱ	1	必履修	一斉	普通	1

No. 4
数学Ⅱ

教科書（発行所）	改訂版 新編数学Ⅱ（数研出版）
教科書以外の教材	チャート式解法と演習数学Ⅱ+B（数研出版）

目 標		いろいろな式、図形と方程式、指数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。	
学期	学習時期	学習内容と目標	考查等
二 学 期	12月	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解するとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 1 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をする。また、整式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算する。	
	1月	2 等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質などを用いて証明する。 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 1 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をする。また、2次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。 2 因数定理について理解し、簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求める。	
三 学 期	2月	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 1 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表す。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを二直線の位置関係などの考察に活用する。 2 座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用する。 3 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求める。また、簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりする。	学年末考查
	3月		
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<ul style="list-style-type: none"> ○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかり身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え理解することに集中する。 	
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> ○評価の観点は、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○単元や各授業の学習過程で、評価の観点の4項目について、良い点や進歩の状況などを評価し、その累積と定期考查等の状況及び出席状況により各学期ごとにまとめる。 	
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な評価は、授業の中での観察、ノート、日々題、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、単元ごとに単元テストを実施し、それらを用いた自己評価も必要に応じて取り入れる。 	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学A	1	必修	一斉	普通	1

No. 5
数学A

教科書（発行所）	改訂版 新編数学A （数研出版）
教科書以外の教材	類比方式による2020数学I・A（九州数学教育会） チャート式解法と演習数学I+A（数研出版）

目 標		場合の数と確率、整数の性質及び図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	
学期	学習時期	学習内容と目標	考査等
一学期	7月	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 三角形に関する基本的な性質について、それらが成り立つことを証明する。 2 円に関する基本的な性質について、それらが成り立つことを証明する。 3 基本的な図形の性質などをいろいろな図形の作図に活用する。 4 空間における直線や平面の位置関係やなす角についての理解を深める。また、多面体などに関する基本的な性質について理解し、それらを事象の考察に活用する。	第2回実力考査
	8月		
二学期	10月	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則について理解する。 2 具体的な事象の考察を通して順列及び組合せの意味について理解し、それらの総数を求める。 3 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求められるようにする。また、確率を事象の考察に活用する。 4 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求められるようにする。また、それらを事象の考察に活用する。 5 条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求める。また、それらを事象の考察に活用する。	第3回実力考査 2学期期末考査
	11月		
	12月	以降は、数学Ⅱの内容を学習する。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<ul style="list-style-type: none"> ○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかり身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え理解することに集中する。 	
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> ○評価の観点は、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○単元や各授業の学習過程で、評価の観点の4項目について、良い点や進歩の状況などを評価し、その累積と定期考査等の状況及び出席状況により各学期ごとにまとめる。 	
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な評価は、授業の中での観察、ノート、日々題、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、単元ごとに単元テストを実施し、それらを用いた自己評価も必要に応じて取り入れる。 	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	科学と人間生活	2	必修	一斉	普通	1

No. 6

科学と人間生活

教科書（発行所）		数研出版 新 科学と人間生活				
教科書以外の教材		新 科学と人間生活 整理ノート 科学と人間生活 補充テキスト&問題集 化学編				
目 標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解する。 2. 身近な事象・現象に関する観察・実験などを通して、科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて理解を深める。 3. 科学の基本的な概念や原理・法則を学び、科学的な見方や考え方を養う。 4. 科学に対する興味・関心を高める。 5. 科学技術の在り方について市民が意思決定するために必要な、科学的な知識、能力、態度を身につける。 				
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等		
一 学 期	4月～5月	2編 生命の科学	生物と光の関係、微生物とその利用を理解する (実験) 光合成色素を調べる (実験) 酵母菌のはたらきを調べよう	中間考查		
	6月～7月	3編 熱や光の科学	熱と光の性質とその利用を理解する (実験) 熱の発生を確かめよう			
		4編 地球や宇宙の科学	天体と地球の特性と違いを理解する 自然景観と自然災害について理解する	期末考查		
二 学 期	9月	1編 物質の科学	<補充テキストを用いて理解を深める> 第1章 物質の構成について理解する			
	10月		第2章 物質の構成粒子について理解する	中間考查		
	11月		第3章 粒子の結合について理解する			
	12月		1編のまとめ(テキストを用いて問題演習を行う) 冬季休業課題としてプリント配布する	期末考查		
三 学 期	1月～3月	2編 物質の変化	<補充テキストを用いて理解を深める> 第1章 物質と化学反応式について理解する 基礎チェックで演習を行う 理系に進学する者には春季休業課題としてプリントを配布する	学年末考查		
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を重視し、板書はスピーディーに行う。 ・先生の話をよく聞いて、重要と思われるものはメモをとる。 ・復習を行い、分からないものをそのままにしておかない。 ・課題等の提出物は必ず期限内に出す。 ・教材の忘れ物をしない。 				
評価の観点		<ol style="list-style-type: none"> ①科学に対する関心、意欲、態度。 (常に向上心を持って、ひたむきにそして誠実に努力する姿勢を大切にしたい。) ②科学に対する思考、判断、表現力。 (ただ単に暗記するのではなく、常に関連分野とのつながりを考え、その意味を理解するように努めて欲しい。) 				
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考查 ・課題(考查訂正ノート、宿題)などの提出状況 (課題提出は期限を守る。ただ、終わらせればよいという考えではなく、確実に理解しながら取り組んで欲しい。) 				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 8
保健体育	体育	3	必履修	種目選択	普通	1	体育

教科書（発行所）	ステップアップ高校スポーツ 2020（大修館）
教科書以外の教材	

目 標	<p>1. 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正、協力、責任などの態度を身につける。</p> <p>2. 自己やグループの能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫し、必要な技能や体力を高めるために運動の合理的な行い方を身につける。</p> <p>3. 選択した運動種目の技術や戦術及び規則などを理解し、ゲーム・審判ができるようになる。</p> <p>4. 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、スポーツとのかかわり方や豊かなスポーツライフを設計し実践していく方法を身につける。</p>		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など 考査等
1 学期	4月～7月	<p>①オリエンテーション 「体育学習」の意義や内容、評価の方法を理解することで、活動内容が深まっていく過程とさらに楽しむための工夫ができる。</p> <p>②体づくり運動 自己の体力や生活に応じて、心と体をほぐしたり体力を高める運動を行うことで、健康を保ったり体力の向上が図れる。</p> <p>③新体力テスト 新体力テストをとおして、自己の現在の体力を把握し、よ</p> <p>④選択A バドミントン・卓球 ソフトテニス 自分の興味にあった種目を選択し、基本的な技術を習得するとともにグループで目標・計画を立て、安全に配慮した効果的な練習と協力してゲーム・審判・評価等の活動ができる。</p> <p>⑤水泳 体操 各自の能力に応じた泳法をマスターし、いろいろな泳法で早く泳ぐなど、記録向上の喜びや競技の楽しさを味わう。集団行動や、ラジオ体操第2など、基本的な体の動かし方を身につける。</p>	<p>4月に新体力テストを実施します。</p> <p>選択A・水泳については、体育授業時に実技評価を行います。</p>
2 学期	8月～12月	<p>⑥陸上A 各自の能力に応じた走法をマスターし、記録向上や競争の楽しさを味わい各種目特有の技術を高めることができる。</p> <p>短距離走・リレー等</p> <p>⑦選択B バレーボール・ソフトボール ソフトテニス 自分の興味にあった種目を選択し、基本的な技術を習得するとともにグループで目標・計画を立て、安全に配慮した効果的な練習と協力してゲーム・審判・評価等の活動ができる。</p> <p>⑧陸上B 長距離走 効率のよいフォームをマスターし、ペース配分などを工夫し記録向上や競争の楽しさを味わうことができる。</p>	<p>陸上B・選択Bについては、体育授業時に実技評価を行います。</p>
3 学期	12月～3月	<p>⑨選択C バスケットボール・ サッカー・テニス・武道 自分の興味にあった種目を選択し、基本的な技術を習得するとともにグループで目標・計画を立て、安全に配慮した効果的な練習と協力してゲーム・審判・評価等の活動ができる。</p>	<p>選択Cについては、体育授業時に実技評価を行います。</p>
年 間		⑩体育理論	年間を通して理論を学習することで、効率よく運動に取り組むことができる。
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	<p>1. 運動の楽しさを味わうために自ら進んで活動することが求められています。運動が苦手な人も、これまでの経験からくる運動嫌いのイメージや苦手意識に固執することなく、新たな気持ちで授業に臨むことから始めましょう。</p> <p>2. 自分と仲間の持つ課題を見つけようとする意欲が大切です。自分だけに留まらず仲間の気持ちや体の状態に目をむけ、問題点や解決方法を見つける努力をしましょう。また、自分と仲間の現状を見つめることができる感性を身につけましょう。</p> <p>3. 体育にとっての「学力」とは、基礎的な知識・技能のもとに意欲を持って「スポーツを実践する力」です。日頃のスポーツ実践に心掛けましょう。</p> <p>4. 授業はチャイムと同時に始まります。移動は休み時間に完了し、見学者は授業前に担当者に申し出て指示を受けます。また、服装は学校指定の体育服を着用し、こまめな洗濯で衛生面にも留意しましょう。貴重品の管理は自己管理が原則です。</p>		
評価の観点	<p>「関心・意欲・態度」(30%)・・・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしているか。公正、協力、責任などの社会的態度が身につけているか。健康や安全に留意して運動しようとしているか。</p> <p>「思考・判断」(30%)・・・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫しているか。</p> <p>「運動の技能」(20%)・・・自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めているか。</p> <p>「知識・理解」(20%)・・・社会の変化とスポーツ・運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身につけているか。</p>		
評価の方法	4つの観点に基づいて評価された前・後期と各領域(各運動や理論)の成績及び体育行事の取り組み方・結果分析等を総合して学年の成績とします。学年の評定は、他教科に準じて5段階によって示されます。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 9
保健体育	保健	1	必修	一斉	普通	1	保健

教科書（発行所）	現代高等保健体育改訂版（大修館 保体304）
教科書以外の教材	現代高等保健体育ノート改訂版（大修館）

目 標		<p>1. 個人や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち，自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てる。</p> <p>2. 健康・安全の意義を理解するとともに，現代社会と健康について課題解決の役立つ基礎的な事項を理解し，知識を身につける。</p> <p>3. 心身の健康や安全に関する課題解決ができるようになり，適切な意思決定を行い，選択すべき行動を適切に判断できる力を身につける。</p>		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学期	4月	1 単元 現代社会と健康 私たちの健康のすがた 健康のとらえかた	健康問題の変化を具体的に理解するとともに，健康の定義 健康のための成立要因や条件等を考える。	
	6月	応急手当の意義とその基本 心肺蘇生法 日常的な応急手当 健康と意思決定・行動選択	応急手当の意義と基本や心肺蘇生法に興味を持ち，原理を 知ることが，積極的に生命を救うことにつながることを 理解する。	消防署に依頼 し，心肺蘇生法の 実技講習会を実施 します。
	5月～7月	健康に関する環境づくり 生活習慣病とその予防 食事・運動・休養・睡眠と健康 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康	生活習慣病，喫煙，飲酒，薬物乱用等に関して知的・科 学的に理解するとともに，具体的な対策を考える。	1 学期期末考查
2 学期	9月～12月	現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 欲求と適応規制 心身の相関とストレス ストレスへの対処 心の健康と自己実現	性感染症・エイズ等をめぐる状況について，具体的な対 策を考える。 心と体の関係から欲求・心身相関・ストレスについて 理解する。	2 学期期末考查
		交通事故の現状と要因 運転者の資質と責任 安全な交通社会づくり 防災・防犯をめざした社会づくり	交通事故の現状・要因・運転手の資質や責任等を理解す るとともに，安全な交通社会づくりについて考える。	学年末考查
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<p>◎「保健」という教科は，「健康を保つ」ことを中心に取り扱う授業で，毎週1時間行われます。教科書，保健ノートプリントやワークシートを中心に学習を進めますが，学習に乗り遅れないように積極的に活動することが大事です。</p> <p>◎最近では健康問題がテレビや新聞等で大きく取り扱われます。正しい情報を適切に収集し，日頃から「健康」に関心を持つことと，自分自身の生活から「健康」に関する課題を見つけ，自ら解決する方法を見つけることが大切です。</p>		
評価の観点		◎評価の観点は，「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3項目を中心とするものとします。		
評価の方法		◎評価は，定期考查を基本に，平常の学習態度（意欲も含む），小テスト，ノート，課題の提出などを上記の観点に基づき総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 10
芸術	音楽 I	2	選択必修修	一斉	普通	1	音楽 I

教科書（発行所）	Tutti 音楽 I（教育出版）
教科書以外の教材	Music Note（九州高校音楽研究会） Classic Guitar Course 1(ヤマハ ミュージックメディア)

目 標		音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽および芸術を愛好する心情を育てるとともに、芸術に対する感性を高め、音楽の書能力を伸ばし芸術文化についての理解を深め、豊かな上奏を養う。
学期	学習時期	学習のねらい・提出物・実験内容など
一学期	4月	校歌・音楽の基礎 校歌を歌えるようになることと、校歌の楽譜から音楽の基礎を学ぶ 世界の音楽(歌唱) 1 正しい発声法を学ぶとともに、世界の音楽の特徴を知り、興味・関心を深める。 楽典 1 音楽理論の基礎を学ぶ。
	5月	世界の音楽(鑑賞) 1 世界の音楽の特徴と違いを理解し、それぞれの文化への興味・関心を深める。 歌唱テスト～歌曲を歌うことにより、正しい発声法の修得度を評価する。 楽典 2 音楽理論の基礎を学ぶ。
	6月	クラシックギター奏法の基礎 1 クラシックギターの基本的奏法を身につける。 世界の音楽(歌唱) 2 正しい発声法を学ぶとともに、世界の音楽の特徴を知り、興味・関心を深める。 楽典 3 音楽理論の基礎を学ぶ。
	7月	楽典 3 音楽理論の基礎を学ぶ。 歌唱テスト～歌曲を歌うことにより、正しい発声法の修得度を評価する。
	8月	舞台芸術～オペラ・オペレッタの楽しみ(鑑賞) 総合芸術への興味・関心を深める。
二学期	9月	クラシックギター奏法の基礎 2 クラシックギターの基本的奏法を身につける。 世界の音楽(鑑賞) 2 世界の音楽の特徴と違いを知り、それぞれの文化への興味・関心を深める。 クラシックギター奏法の基礎 3 クラシックギターの基本的奏法の確認テスト。
	10月	西洋音楽史を学ぶ(鑑賞)～時代区分と作曲家 1 世界の音楽(歌唱) 3 正しい発声法の充実を図る～イタリア・ドイツ歌曲に親しむ。 ギターアンサンブル 1 基本的奏法を身につけるとともに、アンサンブルの楽しさを味わう。
	11月	西洋音楽史を学ぶ(鑑賞)～時代区分と作曲家 2 世界の音楽(歌唱) 4 正しい発声法の充実を図る。イタリア・ドイツ歌曲に親しむ。 ギターアンサンブル 2 基本的奏法を身につけるとともに、アンサンブルの楽しさを味わう。
	12月	世界の音楽(歌唱) 4 正しい発声法の充実を図る～日本歌曲に親しむ。 ギターアンサンブル 2 充実した基本的奏法により、さらにアンサンブルの楽しさを味わう。 西洋音楽史を学ぶ(鑑賞)～ベートーヴェンの「第九」について
三学期	1月	世界の音楽(鑑賞) 3 我が国の伝統音楽について学び、世界の音楽との相違点・共通点を理解する。 和楽器(箏) 基本的奏法を身につけるとともに、日本音楽の楽しさを味わう。
	2月	楽しい創作 1 基本的な和音の構造を学び、簡単なメロディーの創作を試みる。 楽しい創作、簡単なメロディーの創作をすることにより、演奏や鑑賞への興味を深める。 舞台芸術～ミュージカルの楽しみ(鑑賞) 総合芸術への興味・関心を深める。
	3月	総合～グループ学習で仕上げたギターアンサンブルを演奏とともに、 他のグループの演奏を鑑賞することによって、総合的な音楽の能力を伸ばす。
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	実技及び理論テストは、定期的に授業の中で実施します。 予習・復習も特に必要ありませんが、普段の授業には積極的に参加してください。 忘れ物がないようにしてください。授業への取り組みがおろそかになる一番の原因です。 提出物やノート、プリント類の整理・保管も丁寧かつ確実に行ってください。	
評価の観点	①関心・意欲・態度：音楽の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組んでいるか。 ②表現の創意工夫：音楽を形成している要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持っているか。 ③表現の能力：創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表しているか。 ④鑑賞の能力：音楽表現の創意工夫に基づき、解釈や価値を考慮し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを味わっているか。	
評価の方法	歌唱・ギターの個人の実技テスト、及びグループ学習によるアンサンブルのテストを実施します。 授業内容をノートにまとめたものを定期的に点検します。その他、プリント類の整理、提出物などの状況等も授業に臨む基本的態度として評価していきます。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
芸術	美術 I	2	選択必修	一斉	普通	1

No. 11

美術 I

教科書（発行所）	高校生の美術 1（日文）
教科書以外の教材	

目 標		美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考査等（評価）
一学期	4月	オリエンテーション 美術史鑑賞「各時代様式」 記名レタリング（ゴシック体）	授業の受け方（美術室の利用規則・評価方法の説明） 原始美術、油彩の発達、版画の発達、写真の発明、印象派まで。 ・色の塗り方・混色の基本・色の三原色・色の三要素 ・レタリング技法	スケッチブック・作品の提出等
	5月	絵画「静物を描く」～素描① 絵画「静物を描く」～油彩画①	・基本的な形のとりえ方 ・エスキースの方法	
	6月		・基本的な空間表現 ・油絵の具の使用法 ・地塗り ・3原色による彩色 ・混色と塗り重ね ・下描き（木炭の使用法）	
	7月		・10色による彩色 ・額作り ・相互鑑賞	
	8月			
二学期	9月	デザイン「生活の中のデザイン」①～A4パネルでオリジナルクロックをつくる	・日常の中でデザインの役割 ・用と美の関係 ・下地作り	スケッチブック・作品の提出等
	10月		・様々な用材と技法 ・彩色の技法と手順 ・効果的な加工 ・相互鑑賞	
	11月	絵画「版で表す」① ～身近な地域を題材に：日置地域学から	・凸版画の表現の特徴 ・下絵の構成（総合の時間～「日置地域学」からの発想） ・下絵の制作	
	12月		・トレースと転写 ・製版 ・刷り ・彩色版画の技法体験 ・額装 ・相互鑑賞	
三学期	1月			スケッチブック・作品の提出等
	2月	デザイン～「16歳の思い出」	・自分たちの身近な題材から缶バッジをデザイン ・アイディアスケッチと彩色 ・様々な材料と技法 ・PCで加工 ・機械を使つてのプレス ・相互鑑賞と交換会	
	3月	鑑賞「絵画のみかた」 対話型鑑賞 1年間の学習のまとめ	グループ毎に話し合い、絵の魅力を皆に伝えられるよう内容を工夫し、絵画の構成要素等を手がかりにプレゼンテーションを行う。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）		①表現や鑑賞の活動において、自身の考えや感想を文章や言葉にすることを心がけましょう。 ②毎時間集中して計画的に制作に取り組むことが必要です。授業を楽しむ姿勢を持ちましょう。 ③制作に行き詰まったり、疑問点が出てきた場合は、積極的にアドバイスをもらいましょう。 ④準備や片付けも授業の一環です。道具は大切に扱い、もとあった場所に整然と美しく片付けましょう。		
評価の観点		①関心・意欲・態度…課題内容に対し、興味関心を持ち、主体的に活動に取り組むことができたか。 ②発想や構想の能力…表現形式の特性を生かし、工夫して創造的な表現の構想を練ることができたか。 ③創造的な技能…必要な技能を身に付け、感性を働かせ制作意図にあった方法を創意工夫できたか。 ④鑑賞の能力…作品の良さや美しさ、心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、味わうことができたか。		
評価の方法		評価の観点を基に、授業への取り組み（出席状況、授業態度、活動への参加状況）、授業作品・スケッチブック（制作意図の理解、創意工夫、感性を働かせた表現等）、感想文等の提出を総合的に判断して評価する。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 12
芸術	書道 I	2	選択必修	一斉	普通科	1 年	書道 I

教科書（発行所）	「書道 I」（東京書籍）
教科書以外の教材	

目 標	(1) 書道に対する興味・関心を深め、意欲的に取り組む態度を身につけます。 (2) 書道の基礎的・基本的な知識や技術を身につけるとともに、さまざまな表現技法を学びます。 (3) 多くの作品を鑑賞しながら書作品の良さや美しさを理解し、書道を愛好する心情を育みます。
-----	---

学期	月	時間	学 習 内 容 と 学 習 の ね ら い	備 考
----	---	----	-----------------------	-----

一 学 期	4	4	1 授業ガイダンス ・書道 I の学習内容、授業の進め方、取り組む姿勢について理解します。 ・用具・用材について理解します。 ・書体の変遷について学習します。	道具一式を揃えます。	
	5		表 現	鑑 賞	
	6		2 篆刻の学習 ・篆刻について理解し、自用印（白文印）を作成します。	篆刻の知識について理解し、完成した印を今後の作品への押印に活かします。	個別に添削を受けます。 完成印を提出します。
	6	16	3 楷書の学習 ・毛筆の特徴を理解し、基礎的・基本的な技術を習得します。 ・臨書(古典を手本にして書くこと)を基本にして学習します。 ・いろいろな表現技法を習得します。	古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・牛欄造像記 ・九成宮醴泉銘 ・自書告身 ・鄭義下碑	個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	7				

二 学 期	9	18	4 行書・草書の学習 ・行書・草書の古典を通して学習します。 ・いろいろな表現技法を習得します。	古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・蘭亭序 ・争坐位文稿 ・風信帖 ・書譜	個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	10				
	11		5 創作の学習 ・漢字 1～4 字、漢字仮名交じりの短い語句等を題材にして創作をします。	古典や参考作品を鑑賞し、さまざまな表現技法を創作に活かせるようにします。	個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	12				

三 学 期	1	8	6 仮名の学習 ・仮名の基本的な表現技法を習得します。 ・仮名の古筆の臨書に取り組めます。	古筆を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・蓬萊切 ・高野切第三種	個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	2	4	7 漢字仮名交じりの書の学習 ・漢字と仮名の調和による表現を学習し、親しみのある作品作りに取り組めます。	参考作品などを通して、さまざまな表現技法を創作に活かせるようにします。	個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。
	3	2	8 まとめ ・制作した自分の作品を通して、授業の成果を振り返ります。 ・自分の作品やお互いの作品をじっくり鑑賞します。		感想の発表やまとめプリントを提出します。

先生からのアドバイス (授業の進め方)	書道では主に毛筆を取り扱っていきます。これまで学んできた表現に加え、古人が目指した美意識について学びます。表現するだけでなく鑑賞や理論を通して奥深さを理解できます。用具・用材を大に取り扱い、積極的な粘り強い取り組みが望まれます。
------------------------	--

評価の観点	(1) 書への関心・意欲・態度（書への関心を持ち、主体的かつ意欲的に取りくもうとしている。） (2) 書表現の構想と工夫（自らの感性と意図に基づいて構想し、表現を工夫している。） (3) 創造的な書表現の技能（書のさまざまな表現技法を生かし、効果的な表現をしている。） (4) 鑑賞の能力（書の伝統や文化について理解し、書の良さや美しさを味わっている。）
-------	--

評価の方法	(1) 授業中の取り組む姿勢や意欲などを評価します。 (2) 添削等の個別指導をおこない、練習の過程を評価します。 (3) 提出した清書作品で、表現技法の理解や到達度、作品としての完成度を評価します。
-------	--

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語I	3	必修	一斉	普通科	1

No.

教科書（発行所）	MY WAY English Communication I New Edition(三省堂)
教科書以外の教材	ライトハウス英和辞典（研究社） 参考書は別途指示

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・学習活動など	考查等
一学期	4月 Lesson 1 A Story about Names	SV / SVO / SVC / SVOO 動詞と名詞	(読解) 姓名の順、姓の成り立ちについて学ぶ。 (活動) 日本人の名前の変遷について調べ発表する。 (その他) 高校での英語学習の方法・習慣を身に付ける。	第1回実力考查
	5月 Lesson 2 Messages from Yanase Takashi	SVOC / SVOO(that節) 比較級・最上級/形容詞・副詞 Activity Corner 1	(読解) アンパンマンをとおして平和について考える。 (活動) 真のヒーロー像について各自の意見を発表する。 (その他) 定期考查へ向けての学習を実践する。	1学期中間考查
	6月 Lesson 3 Purposes of the Olympics	助動詞 / 受け身 助動詞のついた受け身 主語と(述語)動詞	(読解) オリンピックの歴史と問題点について学ぶ。 (活動) オリンピックと国際交流の関係性について調べ、発表する。(Group Work)	1学期期末考查
	7月 Lesson 4 Hospital Art	現在進行形 / 現在完了形 過去完了形 / 前置詞句 Activity Corner 2	(読解) 病院に設置されている芸術作品の力に気付かせる。 (活動) 田んぼアートの写真を鑑賞して、その感想を発表する。(Group Work)	
	8月 復習	既習内容の総復習		第2回実力考查
二学期	9月 Lesson 5 Writing Systems in the World	動名詞 / to不定詞 It is ... to不定詞 フレーズリーディング 1	(読解) 世界の様々な文字やその成り立ち、書き方について学ぶ。(活動) 文字をもたない言語について調べて発表する。(Group Work)	
	10月 Lesson 6 Washoku Traditional Japanese Dishes	関係代名詞(主格・目的格) SVOO(how to～) フレーズリーディング 2	(読解) 和食の特徴についての説明文を的確に読み取らせる。(活動) 食文化を守る取り組みを紹介する。(Presentation)	2学期中間考查
	11月 Lesson 7 From Landmines to Herbs	現在分詞/過去分詞の形容詞 的用法、分詞構文 代名詞	(読解) 地雷跡地に作られたハーブ畑でハーブ製品を作りビジネスを始めた篠田さんの活動について学ぶ。 (活動) ビジネスを通じた社会貢献についてまとめる。	第3回実力考查 2学期期末考查
	12月 Lesson 8 A Mysterious Object from the Past	関係副詞 It is ... that～ 時を表す語句	(読解) 古代の遺物を通じて、人類の文明について考える。 (活動) 黄金細工の正体について想像させて意見を交換する。(Group Work)	
三学期	1月 Lesson 9 Sesame Street	条件を表すif 節 仮定法過去 パラグラフ・リーディング1	(読解) 平等と多様性や各国が抱えている諸状況について学ぶ。(活動) 平等や多様性という概念について short speech を行う。	第4回実力考查
	2月 Reading Heritages of Beatrix Potter	SVO+to不定詞 SVOC(動詞の原形・過去分詞) パラグラフ・リーディング2	(読解) ビアトリクス・ポターの生き方を学び、環境保護について考える。(活動) 学習した内容についての自分の考えをまとめ発表する。(Presentation)	学年末考查
	3月 復習	既習内容の総復習	1年間で学習した語彙・文法・語法を復習する。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)	<ol style="list-style-type: none"> 1 配布済みのノートの取り方に従って、自分の参考書となるようなノートを作る。毎日予習をする。 2 授業中は、予習段階で分からなかったところを理解するように心がけ、積極的に英語を用いて発表する。 3 復習は必ずその日のうちに済ませる。不明な所はそのままにせず、積極的に質問する。 4 自宅学習を継続する。(平日は1時間、土日はそれぞれ2時間程度は最低でも必要) 			
評価の観点	<p>次の4つの観点で、授業時の学習の様子、提出物の提出状況、小テストの取り組み、各考查の成績を対象に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションへの関心・意欲・態度（コミュニケーションへの積極性がある。） ・ 外国語表現の能力（外国語で話すこと書くことを通して、情報や考えなどを適切に伝える。） ・ 外国語理解の能力（外国語で聞くこと読むことを通して、情報を考えなどを的確に理解している。） ・ 言語や文化についての知識・理解（言語やその運用についての知識や背景文化への理解がある。） 			
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考查6割、実力考查2割、平常点2割で評価します。 ・ 定期考查や実力考查は上記4つの観点に基づいて作成します。 ・ 平常点は提出物や小テスト、授業中の活動の様子や成果を対象とします。 			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
外国語	英語表現 I	2	必修	習熟度	普通科	1

No.

教科書（発行所）	NEW FAVORITE English Expression ①
教科書以外の教材	ライトハウス英和辞典（研究社） 英作基本文例 600 参考書・問題集等

目 標		英語を使って、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・言語活動など	考查等	
一学期	4月 Bridge Lesson Lesson 1	品詞、文の要素、句と節 疑問詞と疑問文 S+V,S+V+C,S+V+O	高校英語入門 ・自己紹介の基本である名前、年齢、好きなこと等を基本的な文構造を使って表現できるようになる。	第1回実力考查	
	5月 Lesson 2 Lesson 3	S+V+O+O, S+V+O+C 現在形,過去形 現在進行形,過去進行形	・各文化圏における歓迎会の際の表現やマナーについて理解する。・手紙における固有の表現や書くうえで約束事について理解できる。	1学期中間考查	
	6月 Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6	未来を表す表現 現在完了形(現在完了進行形) 過去完了形(過去完了進行形)	・Eメールにおける定型の言い回しを使って簡単な内容を表現できる。・趣味の紹介に特有の言い回しを表現できる。・アプリを使って出来事を報告してみる。	1学期期末考查	
	7月 Lesson 7	助動詞(能力・可能・許可) (禁止・義務・推量 等)	・適切な助動詞を用いて学校の規則を説明し、各文化圏における規則のあり方や、その文化に固有の問題点を理解できる。		
	8月	復習	・既習事項の総復習	第2回実力考查	
二学期	9月 Lesson 8 Lesson 9	助動詞 受け身,受け身を使った 慣用表現	・助動詞の微妙なニュアンスの違いを理解できる。 ・受け身と、受け身を用いた慣用表現が正確に理解でき、日本の伝統文化を英語で紹介する。		
	10月 Lesson 10 Lesson 11 Lesson 12	to不定詞の各用法 動名詞(慣用表現を含む) 現在分詞,過去分詞	・日米ジェスチャーの違いについて話し合う。(Group) ・漫画の内容に合う決意を主人公の立場で発表する。 ・好きな映画等を分詞を用いて紹介できる。(個人)	2学期中間考查	
	11月 Lesson 13 Lesson 14 Lesson 15	知覚/使役動詞+分詞 関係代名詞(who, whom) 関係副詞(where, when)	・新聞記事に特有の表現を理解できる。 ・関係代名詞を使って正確に文を作ることができる。 ・関係副詞を用いてガイド文を作成する。	第3回実力考查 2学期期末考查	
	12月 Lesson 16	関係代名詞,関係副詞の 非制限用法 前置詞+関係代名詞	・環境配慮へのスピーチをする。 ・関係詞の制限用法と非制限用法の違いを理解する。 ・各文化圏の環境問題の特徴を英語でまとめる。		
三学期	1月 Lesson 17 Lesson 18	比較(同等比較・比較級・ 最上級,倍数比較,比較 表現の言い換え)	・比較表現や倍数表現を使って文を作ることができる。 ・世界名所の比較や住んでいる場所の紹介文を作って発表する。(グループ活動)	第4回実力考查	
	2月 Lesson 19 Lesson 20	仮定法過去,仮定法過去 完了, as if ~, I wish ~	・仮定法過去と仮定法過去完了の違いを理解できる。 ・自分の理想の学校についてスピーチをする。 ・1年間の感謝の気持ちを伝える英文を作り発表する。	学年末考查	
	3月	復習	・既習事項の総復習		
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		<ul style="list-style-type: none"> ・予習→授業→復習のサイクルを確立する。 ・Target と Focusは何回も音読する。 ・Exercises は英文の一部だけでなく全体を書いて解答する。 ・復習としてポイントを再確認し、音読しながら英文を書き写す。 			
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力 ・外国語理解の能力 ・言語や文化についての知識・理解 			
評価の方法		定期考查6割,実力考查2割,平常点2割で評価する。 定期考查や実力考查は上記の4つの観点に基づいて作成する。 平常点は提出物や小テスト、授業中の活動とその成果を対象とする。			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
家庭	家庭基礎	2	必修	一斉	普通	1

No. 15
家庭基礎

教科書（発行所）	家庭基礎 自立・共生・創造 （東京書籍）
教科書以外の教材	最新 生活ハンドブック 2020 資料&成分表

目 標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等	
一 学 期	4月	1章 自分らしい人生をつくる	人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭の在り方、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識する。	家族・家庭ワーク	
	5月				
	6月	2章 子どもと共に育つ	乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育及び子どもの福祉について理解し、親や家族、地域、社会の果たす役割が重要なことを認識する。	出産のビデオ 保育ワーク 絵本の読み聞かせ	
	7月	3章 高齢社会を生きる 4章 共に生き、共に支える	高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解する。	高齢者ワーク 認知症について	一学期末考查
	8月	*ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動			
二 学 期	9月	6章 衣生活をつくる	被服の機能と着装、被服材料、管理などの基礎的な知識・技術を習得し、健康で快適な衣生活を営む。	被服材料ワーク 被服実習	
	10月				
	11月	5章 食生活をつくる	栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得し、家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。	調理実習①	二学期末考查
	12月				
*ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動					
三 学 期	1月	7章 住生活をつくる	住居の機能、住生活と健康・安全に関する基礎的な知識・技術を習得し、健康で快適な住生活を営む。	間取り 住居ワーク	
	2月				
	3月	8章 経済生活を営む	家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得し、現代の消費生活について認識し責任ある消費行動をめざす。	消費者ワーク	学年末考查
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		1 現在の生活の改善とともに、将来よりよい家庭生活を築けるよう意欲的に授業に取り組みましょう。 2 素直な気持ちで周囲と協力しながら熱心にワークや実習に取り組みましょう。 3 ノートは後で見やすいように工夫して記録しましょう。授業後に提出して評価の参考にします。			
評価の観点		「関心・意欲・態度」・・・授業に積極的に参加し、ノート記録もよくなされているか。 「知識・理解」・・・平常の授業の中で学んだことを理解し、認識できているか。 「技術・技能」・・・被服や調理その他の実習について、目標にどのくらい到達しているか。 「思考・判断」・・・示された課題に対して、十分考え、判断することができたか。			
評価の方法		授業への取り組み、提出物（授業ノートや作品）と3回の定期考查から総合的に評価する。 「関心・意欲・態度」 20% 「知識・理解」 60% 「技術・技能」 10% 「思考・判断」 10%			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
情報	社会と情報	2	必修	一斉	普通	1

No. 16
社会と情報

教科書 (発行所)		社会と情報 (東京書籍)				
教科書以外の教材		社会と情報 学習ノート(東京書籍) 教材プリント				
目 標		コンピュータやインターネットなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を修得するとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を身につける。				
学期	学習時期	学習内容と目標			考查等	
一 学 期	4月	I. 情報を理解しよう 1 問題解決の手順を知ろう。 生活の中でさまざまな問題を発見し考える。問題解決のためのいろいろな手順と方法を学ぶ。			期末 考 査	
	5月	I. 情報を理解しよう 2 基本的な知識と技術を身につけよう。 問題解決のためにコンピュータを活用するための基本的な知識を学び、使用法や活用方法を身につける。(実習 Wordによる文書作成等)				
	6月～7月	I. 情報を理解しよう 3 ネットワークで情報を共有しよう。 情報を効果的に活用するために、情報の整理・共有の方法について学ぶ。情報を相手に適切に伝える方法を学ぶ。(実習 メモ帳, ペイント, オートシェイプ)				
二 学 期	9月	II. 情報を活かそう。 1 情報を集めよう。 いろいろな情報源とその特徴を理解し、効果的な検索方法を学ぶ。誤った情報や、さまざまな立場からの情報があることを理解する。			期末 考 査	
	10月	II. 情報を活かそう。 2 情報を分析しよう。 表計算ソフトウェアを使って数値データを集計する。グラフ機能やデータベース機能を使い、数値データを分析する。(実習 Excelによるアンケート集計)				
	11月	II. 情報を活かそう。 3 情報を発信しよう。 相手に効果的に情報を伝えるための手順や方法を学ぶ。情報発信時に守るべきルールやマナーを学ぶ。(実習 パワーポイント)				
	11月～12月	II. 情報を活かそう。 3 情報を発信しよう。 個人情報の保護, 作成者の権利の保護 (著作権, 知的財産権) について学ぶ。(実習: パワーポイントを使った研究発表)				
三 学 期	1月～3月	III. 情報を表現しよう。 HTML言語を用いたWebページの製作。(実習: 簡単なWebページの作成とハイパーリンクの設定)			学 年 末 考 査	
出題方針		教科書の内容を中心に、副教材問題集から出題				
定 期 考 査 範 囲	1学期中間	なし				
	1学期期末	I. 情報を理解しよう 1 問題解決の手順を知ろう。～3 ネットワークで情報を共有しよう。(教科書, 学習ノートから範囲指定)				
	2学期中間	なし				
	2学期期末	II. 情報を活かそう。 1 情報収集をしよう ～3 情報を発信しよう。(教科書, 学習ノートから範囲指定)				
	学年末	III. 情報を表現しよう(教科書, 学習ノートから範囲指定)				
先生からの アドバイス (予習・復習の方法, 授業の受け方, ノート の取り方等)		○情報活用の実践力の育成が中心なので, 実習が半分以上となるので, 出席を重視します。 ○昨今, 情報モラルの重要性が叫ばれています。このことも重視します。 ○「情報嫌いをつくりたくない」ことが最大のテーマと考えています。				
評価の観点 評価の方法		評価の観点				
		評価の観点は, 情報への関心・意欲・態度, 情動的な見方や考え方, 情動的な表現・処理, 知識・理解の4項目とします。				
		評価の方法				
		1・2学期の期末考査, 学年末考査の年間3回, 50分100点ずつのペーパーテストを実施。ペーパーテスト, 平常点(実習態度, 課題)で総合評価します。				